

1年	科目	物質工学入門	講義	前期	担当	古川 一実
物質工学科		introductory chemistry and biochemistry	必修	1履修単位		Kazumi FURUKAWA
授業の概要						
物質工学とは、物質の組成、構造、性質を探究して、新しい素材や利用方法を提案する学問である。沼津高専の物質工学科では、5力年間で材料化学と生物工学の領域を学習する。1年生では本授業において、物質工学科教員の研究紹介を通じて、物質工学に関する理解を深めると同時に、生物工学を学ぶ上で必要な生命科学に関する基本的な知識を学ぶ。						
本校学習・教育目標(本科のみ)		目標	説明			
	○	1	技術者の社会的役割と責任を自覚する態度			
		2	自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力			
		3	工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力			
		4	豊かな国際感覚とコミュニケーション能力			
		5	実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢			
プログラム学習・教育目標 (プログラム対象科目のみ)						
実践指針 (専攻科のみ)						
授業目標						
物質工学科教員の研究紹介時に課せられる課題に取り組むことで物質工学科の分野を学習し、身に付ける。さらに、その過程において、研究紹介に出てきたキーワードを教科書をはじめ、図書館やインターネットで詳しく調査し、その要点を文章化して報告する能力(調査能力とレポート作成能力)を身に付ける。また、生命科学の基礎となる生物の仕組みを高校の生物学程度に理解し、説明できるようになることを目的とする。						
授業計画						
第1回	オリエンテーション	物質工学入門の受講ガイダンス、学科紹介、自己紹介				
第2回	物質工学の世界を学ぶ 1	物質工学科教員の専門分野や研究領域の紹介 (3名×25分程度)				
第3回	物質工学の世界を学ぶ 2	物質工学科教員の専門分野や研究領域の紹介 (3名×25分程度)				
第4回	物質工学の世界を学ぶ 3	物質工学科教員の専門分野や研究領域の紹介 (3名×25分程度)、レポート返却指導				
第5回	物質工学の世界を学ぶ 4	物質工学科教員の専門分野や研究領域の紹介 (3名×25分程度)				
第6回	物質工学の世界を学ぶ 5	物質工学科教員の専門分野や研究領域の紹介(予備)、まとめ、発表				
第7回	生命科学 1	細胞小器官と生体を構成する物質				
第8回	生命科学 2	細胞とエネルギー:代謝とエネルギー				
第9回	生命科学 3	細胞とエネルギー:光合成と呼吸				
第10回	生命科学 4	細胞分裂				
第11回	生命科学 5	遺伝子とその働き:遺伝子とDNA				
第12回	生命科学 6	生体内の環境				
第13回	生命科学 7	生体内の恒常性				
第14回	生命科学 8	生体防御				
	前期末試験	生命科学1～8の授業内容についての筆記試験				
第15回	まとめ	試験返却、まとめ				
第16回						
第17回						
第18回						
第19回						
第20回						
第21回						
第22回						
第23回						
第24回						
第25回						
第26回						
第27回						
第28回						
第29回						
	学年末試験					
第30回						
評価方法と基準	各授業時間で課題として作成を指示されたレポート(35%)、プレゼンテーション(5%)および試験の成績(60%)で評価する。					
教科書等	二訂版 スクエア最新図説生物neo(第一学習社)、化学のレポートと論文の書き方(化学同人)、実験データを正しく扱うために(化学同人)					
備考	1.試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2.授業参観される教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。					

1年	科目	情報処理基礎	講義	通年	担当	内田正章
全学科共通		Introduction to Information Processing	必修	2		Masaaki UCHIDA
授業の概要						
コンピュータの普及により情報社会となった現在では、コンピュータを使った世界でも実社会と同様にルールとマナーが求められる時代になってきている。特に、最近ではコンピュータやネットワークを利用した際にルールやマナーの欠如が原因となり、トラブルに巻き込まれたり、逆に知らず知らずのうちにトラブルを起こしていることがある。これらの現状を踏まえ、情報モラルを含めたコンピュータ全般の話題について広く講義し、情報社会においてコンピュータを適正に使うための最低限の知識を身につけることを目的とする。						
本校学習・教育目標(本科のみ)		目標	説明			
	○	1	技術者の社会的役割と責任を自覚する態度			
		2	自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力			
		3	工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力			
		4	豊かな国際感覚とコミュニケーション能力			
		5	実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢			
プログラム学習・教育目標 (プログラム対象科目のみ)						
実践指針 (専攻科のみ)						
授業目標						
コンピュータの仕組みを理解し、コンピュータ機器やネットワークをルールやマナーを守って利用できる。						
授業計画						
第1回	ガイダンス インターネットの利用法について	総合情報センタ利用案内、moodleの利用法				
第2回		電子メールによる情報の受信・発信				
第3回		インターネット利用における注意について(IPA教材)				
第4回		情報社会の個人情報と知的財産				
第5回		情報社会における生活、セキュリティを守る技術				
第6回		復習				
第7回	前期中間試験					
第8回	試験返却 オフィスソフトの利用方法について	解答解説 スプレッドシート				
第9回		スプレッドシート				
第10回		ワードプロセッサ				
第11回		ワードプロセッサ				
第12回		プレゼンテーション				
第13回		プレゼンテーション				
第14回		復習				
	前期末試験					
第15回	試験返却	解答解説 プレゼンテーション発表				
第16回	コンピュータの仕	コンピュータの仕組み				
第17回		コンピュータの仕組み				
第18回		情報のデジタル表現				
第19回		情報のデジタル表現				
第20回		情報ネットワーク				
第21回		情報ネットワーク				
第22回		復習				
第23回	後期中間試験					
第24回	試験返却 コンピュータを利用した問題解決	解答解説 コンピュータを利用した問題解決				
第25回		コンピュータを利用した問題解決				
第26回		コンピュータを利用した問題解決				
第27回		コンピュータを利用した問題解決				
第28回		コンピュータを利用した問題解決				
第29回		コンピュータを利用した問題解決				
第30回		復習				
	学年末試験					
第31回	試験返却 授業アンケート	解答解説、アンケート コンピュータを利用した問題解決				
評価方法と基準						
前期中間試験20%、前期中間演習5%、前期期末試験15%、前期期末演習10%、後期中間試験20%、後期中間演習5%、学年末試験15%、学年末演習10%の割合で評価するが、不適切なコンピュータの利用や利用に伴うモラルの欠如が見られた場合は不合格となることもある。また、授業態度や演習レポートの提出状況に応じて減点ないし不合格とすることもある。試験を欠席した場合は見込み点を原則とする。						
教科書等						
インターネット社会を生きるための情報倫理 新課程版(実教出版) 情報セキュリティ読本 4訂版(実教出版)						
備考						
1.試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2.授業参観される教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。						

1年	科目	情報処理基礎	講義	通年	担当	内田正章
全学科共通		Introduction to Information Processing	必修	2		Masaaki UCHIDA
授業の概要						
コンピュータの普及により情報社会となった現在では、コンピュータを使った世界でも実社会と同様にルールとマナーが求められる時代になってきている。特に、最近ではコンピュータやネットワークを利用した際にルールやマナーの欠如が原因となり、トラブルに巻き込まれたり、逆に知らず知らずのうちにトラブルを起こしていることがある。これらの現状を踏まえ、情報モラルを含めたコンピュータ全般の話題について広く講義し、情報社会においてコンピュータを適正に使うための最低限の知識を身につけることを目的とする。						
本校学習・教育目標(本科のみ)		目標	説明			
	○	1	技術者の社会的役割と責任を自覚する態度			
		2	自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力			
		3	工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力			
		4	豊かな国際感覚とコミュニケーション能力			
		5	実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢			
プログラム学習・教育目標 (プログラム対象科目のみ)						
実践指針 (専攻科のみ)						
授業目標						
コンピュータの仕組みを理解し、コンピュータ機器やネットワークをルールやマナーを守って利用できる。						
授業計画						
第1回	ガイダンス インターネットの利用法について	総合情報センタ利用案内内、moodleの利用法				
第2回		電子メールによる情報の受信・発信				
第3回		インターネット利用における注意について(IPA教材)				
第4回		情報社会の個人情報と知的財産				
第5回		情報社会における生活、セキュリティを守る技術				
第6回		復習				
第7回	前期中間試験					
第8回	試験返却 オフィスソフトの利用方法について	解答解説 スプレッドシート				
第9回		スプレッドシート				
第10回		ワードプロセッサ				
第11回		ワードプロセッサ				
第12回		プレゼンテーション				
第13回		プレゼンテーション				
第14回		復習				
	前期末試験					
第15回	試験返却	解答解説 プレゼンテーション発表				
第16回	コンピュータの仕	コンピュータの仕組み				
第17回		コンピュータの仕組み				
第18回		情報のデジタル表現				
第19回		情報のデジタル表現				
第20回		情報ネットワーク				
第21回		情報ネットワーク				
第22回		復習				
第23回	後期中間試験					
第24回	試験返却 コンピュータを利用した問題解決	解答解説 コンピュータを利用した問題解決				
第25回		コンピュータを利用した問題解決				
第26回		コンピュータを利用した問題解決				
第27回		コンピュータを利用した問題解決				
第28回		コンピュータを利用した問題解決				
第29回		コンピュータを利用した問題解決				
第30回		復習				
	学年末試験					
第31回	試験返却 授業アンケート	解答解説、アンケート コンピュータを利用した問題解決				
評価方法と基準	前期中間試験20%、前期中間演習5%、前期期末試験15%、前期期末演習10%、後期中間試験20%、後期中間演習5%、学年末試験15%、学年末演習10%の割合で評価するが、不適切なコンピュータの利用や利用に伴うモラルの欠如が見られた場合は不合格となることもある。また、授業態度や演習レポートの提出状況に応じて減点ないし不合格とすることもある。試験を欠席した場合は見込み点を原則とする。					
教科書等	インターネット社会を生きるための情報倫理 新課程版(実教出版) 情報セキュリティ読本 4訂版(実教出版)					
備考	1.試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2.授業参観される教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。					

1年	科目	情報処理基礎	講義	通年	担当	望月孔二
全学科共通		Introduction to Information Processing	必修	2		Kouji MOCHIZUKI
授業の概要						
コンピュータの普及により情報社会となった現在では、コンピュータを使った世界でも実社会と同様にルールとマナーが求められる時代になってきている。特に、最近ではコンピュータやネットワークを利用した際にルールやマナーの欠如が原因となり、トラブルに巻き込まれたり、逆に知らず知らずのうちにトラブルを起こしていることがある。これらの現状を踏まえ、情報モラルを含めたコンピュータ全般の話題について広く講義し、情報社会においてコンピュータを適正に使うための最低限の知識を身につけることを目的とする。						
本校学習・教育目標(本科のみ)		目標	説明			
	○	1	技術者の社会的役割と責任を自覚する態度			
		2	自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力			
		3	工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力			
		4	豊かな国際感覚とコミュニケーション能力			
		5	実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢			
プログラム学習・教育目標 (プログラム対象科目のみ)						
実践指針 (専攻科のみ)						
授業目標						
コンピュータの仕組みを理解し、コンピュータ機器やネットワークをルールやマナーを守って利用できる。						
授業計画						
第1回	ガイダンス インターネットの利用法について	総合情報センタ利用案内内、moodleの利用法				
第2回		電子メールによる情報の受信・発信				
第3回		インターネット利用における注意について(IPA教材)				
第4回		情報社会の個人情報と知的財産				
第5回		情報社会における生活、セキュリティを守る技術				
第6回		復習				
第7回	前期中間試験					
第8回	試験返却 オフィスソフトの利用方法について	解答解説 スプレッドシート				
第9回		スプレッドシート				
第10回		ワードプロセッサ				
第11回		ワードプロセッサ				
第12回		プレゼンテーション				
第13回		プレゼンテーション				
第14回		復習				
	前期末試験					
第15回	試験返却	解答解説 プレゼンテーション発表				
第16回	コンピュータの仕	コンピュータの仕組み				
第17回		コンピュータの仕組み				
第18回		情報のデジタル表現				
第19回		情報のデジタル表現				
第20回		情報ネットワーク				
第21回		情報ネットワーク				
第22回		復習				
第23回	後期中間試験					
第24回	試験返却 コンピュータを利用した問題解決	解答解説 コンピュータを利用した問題解決				
第25回		コンピュータを利用した問題解決				
第26回		コンピュータを利用した問題解決				
第27回		コンピュータを利用した問題解決				
第28回		コンピュータを利用した問題解決				
第29回		コンピュータを利用した問題解決				
第30回		コンピュータを利用した問題解決				
第31回		復習				
	学年末試験					
第32回	試験返却 授業アンケート	解答解説、アンケート コンピュータを利用した問題解決				
評価方法と基準	前期中間試験20%、前期中間演習5%、前期期末試験15%、前期期末演習10%、後期中間試験20%、後期中間演習5%、学年末試験15%、学年末演習10%の割合で評価するが、不適切なコンピュータの利用や利用に伴うモラルの欠如が見られた場合は不合格となることもある。また、授業態度や演習レポートの提出状況に応じて減点ないし不合格とすることもある。試験を欠席した場合は見込み点を原則とする。					
教科書等	インターネット社会を生きるための情報倫理 新課程版(実教出版) 情報セキュリティ読本 4訂版(実教出版)					
備考	1.試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2.授業参観される教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。					

1年	科目	情報処理基礎	講義	通年	担当	鈴木康人
全学科共通		Introduction to Information Processing	必修	2		Yasuhito SUZUKI
授業の概要						
コンピュータの普及により情報社会となった現在では、コンピュータを使った世界でも実社会と同様にルールとマナーが求められる時代になってきている。特に、最近ではコンピュータやネットワークを利用した際にルールやマナーの欠如が原因となり、トラブルに巻き込まれたり、逆に知らず知らずのうちにトラブルを起こしていることがある。これらの現状を踏まえ、情報モラルを含めたコンピュータ全般の話題について広く講義し、情報社会においてコンピュータを適正に使うための最低限の知識を身につけることを目的とする。						
本校学習・教育目標(本科のみ)		目標	説明			
	○	1	技術者の社会的役割と責任を自覚する態度			
		2	自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力			
		3	工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力			
		4	豊かな国際感覚とコミュニケーション能力			
		5	実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢			
プログラム学習・教育目標 (プログラム対象科目のみ)						
実践指針 (専攻科のみ)						
授業目標						
コンピュータの仕組みを理解し、コンピュータ機器やネットワークをルールやマナーを守って利用できる。						
授業計画						
第1回	ガイダンス インターネットの利用法について	総合情報センタ利用案内、moodleの利用法				
第2回		電子メールによる情報の受信・発信				
第3回		インターネット利用における注意について(IPA教材)				
第4回		情報社会の個人情報と知的財産				
第5回		情報社会における生活、セキュリティを守る技術				
第6回		情報社会における生活、セキュリティを守る技術				
第7回		復習				
第8回	前期中間試験					
第9回	試験返却	解答解説				
第10回		スプレッドシート				
第11回		ワードプロセッサ				
第12回		ワードプロセッサ				
第13回		プレゼンテーション				
第14回		プレゼンテーション				
第15回		復習				
	前期末試験					
第16回	試験返却	解答解説				
第17回	コンピュータの仕組み	コンピュータの仕組み				
第18回		コンピュータの仕組み				
第19回		情報のデジタル表現				
第20回		情報のデジタル表現				
第21回		情報ネットワーク				
第22回		情報ネットワーク				
第23回		復習				
第24回	後期中間試験					
第25回	試験返却	解答解説				
第26回		コンピュータを利用した問題解決				
第27回		コンピュータを利用した問題解決				
第28回		コンピュータを利用した問題解決				
第29回		コンピュータを利用した問題解決				
第30回		コンピュータを利用した問題解決				
第31回		コンピュータを利用した問題解決				
第32回		復習				
	学年末試験					
第33回	試験返却 授業アンケート	解答解説、アンケート コンピュータを利用した問題解決				
評価方法と基準	前期中間試験20%、前期中間演習5%、前期期末試験15%、前期期末演習10%、後期中間試験20%、後期中間演習5%、学年末試験15%、学年末演習10%の割合で評価するが、不適切なコンピュータの利用や利用に伴うモラルの欠如が見られた場合は不合格となることもある。また、授業態度や演習レポートの提出状況に応じて減点ないし不合格とすることもある。試験を欠席した場合は見込み点を原則とする。					
教科書等	インターネット社会を生きるための情報倫理 新課程版(実教出版) 情報セキュリティ読本 4訂版(実教出版)					
備考	1.試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2.授業参観される教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。					

1年	科目	情報処理基礎	講義	通年	担当	長澤正氏
全学科共通		Introduction to Information Processing	必修	2		Masashi NAGASAWA
授業の概要						
コンピュータの普及により情報社会となった現在では、コンピュータを使った世界でも実社会と同様にルールとマナーが求められる時代になってきている。特に、最近ではコンピュータやネットワークを利用した際にルールやマナーの欠如が原因となり、トラブルに巻き込まれたり、逆に知らず知らずのうちにトラブルを起こしていることがある。これらの現状を踏まえ、情報モラルを含めたコンピュータ全般の話題について広く講義し、情報社会においてコンピュータを適正に使うための最低限の知識を身につけることを目的とする。						
本校学習・教育目標(本科のみ)		目標	説明			
	○	1	技術者の社会的役割と責任を自覚する態度			
		2	自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力			
		3	工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力			
		4	豊かな国際感覚とコミュニケーション能力			
プログラム学習・教育目標(プログラム対象科目のみ)		5	実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢			
実践指針(専攻科のみ)						
授業目標						
コンピュータの仕組みを理解し、コンピュータ機器やネットワークをルールやマナーを守って利用できる。						
授業計画						
第1回	ガイダンス インターネットの利用法について	総合情報センタ利用案内内、moodleの利用法				
第2回		電子メールによる情報の受信・発信				
第3回		インターネット利用における注意について(IPA教材)				
第4回		情報社会の個人情報と知的財産				
第5回		情報社会における生活、セキュリティを守る技術				
第6回		復習				
第7回	前期中間試験					
第8回	試験返却 オフィスソフトの利用方法について	解答解説 スプレッドシート				
第9回		スプレッドシート				
第10回		ワードプロセッサ				
第11回		ワードプロセッサ				
第12回		プレゼンテーション				
第13回		プレゼンテーション				
第14回		復習				
	前期末試験					
第15回	試験返却	解答解説 プレゼンテーション発表				
第16回	コンピュータの仕	コンピュータの仕組み				
第17回		コンピュータの仕組み				
第18回		情報のデジタル表現				
第19回		情報のデジタル表現				
第20回		情報ネットワーク				
第21回		情報ネットワーク				
第22回		復習				
第23回	後期中間試験					
第24回	試験返却 コンピュータを利用した問題解決	解答解説 コンピュータを利用した問題解決				
第25回		コンピュータを利用した問題解決				
第26回		コンピュータを利用した問題解決				
第27回		コンピュータを利用した問題解決				
第28回		コンピュータを利用した問題解決				
第29回		コンピュータを利用した問題解決				
第30回		コンピュータを利用した問題解決				
第31回		復習				
	学年末試験					
第32回	試験返却 授業アンケート	解答解説、アンケート コンピュータを利用した問題解決				
評価方法と基準	前期中間試験20%、前期中間演習5%、前期期末試験15%、前期期末演習10%、後期中間試験20%、後期中間演習5%、学年末試験15%、学年末演習10%の割合で評価するが、不適切なコンピュータの利用や利用に伴うモラルの欠如が見られた場合は不合格となることもある。また、授業態度や演習レポートの提出状況に応じて減点ないし不合格とすることもある。試験を欠席した場合は見込み点を原則とする。					
教科書等	インターネット社会を生きるための情報倫理 新課程版(実教出版) 情報セキュリティ読本 4訂版(実教出版)					
備考	1.試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2.授業参観される教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。					

1年	科目	工学基礎Ⅱ	実験	通年	担当	青木,大久保(進),大沼,大林,後藤,小林(隆), 芹澤,高野,西田,西村,古川,松田,宮内
全学科共通		Fundamentals of Engineering II	必修	2履修単位		AOKI, FURUKAWA, GOTO, KOBAYASHI, MATSUDA, MIYAUCHI, NISHIDA, NISHIMURA, OHBAYASHI, OHKUBO, OHNUMA, SERIZAWA, TAKANO
授業の概要						
21世紀の技術者に求められるのは、高い専門性と同時に、幅広い知識と視野である。この科目では、まだ専門分野の学習が進んでいない1年生を対象に、「機械」、「電気」、「情報」、「化学」、「もの作り」の5つの分野から選ばれた基礎的な10の実験と、PBL(課題解決型学習)を取り入れたグループ作業を行う。これらの作業を通して特定の専門分野に偏らない幅広い視野と、工学全般に共通する基本的な学習姿勢と基礎的な能力を身につける。 各実験に参加する前に、実験書を読み、概要を理解しておくことが必要である。 授業の実施にあたっては、技術室の支援を受ける。押川が総括責任者を、小林(美)がコーディネーターを務める。						
本校学習・教育目標(本科のみ)	○	目標	説明			
		1	技術者の社会的役割と責任を自覚する態度			
		2	自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力			
		3	工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力			
		4	豊かな国際感覚とコミュニケーション能力			
		5	実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢			
プログラム学習・教育目標 (プログラム対象科目のみ)						
実践指針 (専攻科のみ)						
授業目標						
(1) 予習のためにあらかじめ実験書を読み、概要をつかむことができる (2) 必要な道具を持参して実験に取り組むことができる (3) 指示された時間に作業を開始できるように集まることができる (4) 実験に必要な安全な身なりを整えることができる (5) 指示に従い、安全に作業を行なうことができる (6) 計画的に時間を使い、時間内に作業を終えることができる (7) チームで協力して作業をすることができる (8) 整理整頓を意識しながら、作業と片付けができる (9) 得られた結果をもとに簡単な考察を行なうことができる (10) 必要な事項を時間内に簡単な報告書にまとめ、提出できる (11) 工学には幅広い知識と視野が必要なことを理解できる						
授業計画						
第1回	ガイダンス	ガイダンス(1)：科目説明, 諸注意, 安全教育(1)				
第2回		ガイダンス(2)：安全教育(2)				
第3回	第1期 (基礎実験)	実験1 正しいねじの使い方 (機械分野)				
第4回						
第5回		実験2 抵抗の測定 (電気分野)				
第6回						
第7回		実験3 計測と誤差 (情報分野)				
第8回						
第9回		実験4 食品成分の検出 (化学分野)				
第10回						
第11回		実験5 モータの分解 (もの作り分野)				
第12回						
第13回		第1期(実験1～5)のまとめ				
第14回	第2期 (基礎実験)	実験6 スターリングエンジン(機械分野)				
第15回						
第16回		実験7 電磁波検出器コヒーラとアンテナの製作(電気分野)				
第17回						
第18回		実験8 プログラミング (情報分野)				
第19回						
第20回		実験9 化学電池の制作 (化学分野)				
第21回						
第22回		実験10 レゴによるロボット制御 (もの作り分野)				
第23回						
第24回		第2期(実験6～10)のまとめ				
第25回	第3期 (PBL)	メカトロダーツ(1)				
第26回		メカトロダーツ(2)				
第27回		メカトロダーツ(3)				
第28回		メカトロダーツ(4)				
第29回		メカトロダーツ(5)				
第30回		メカトロダーツ(6)				
第31回		メカトロダーツ(7)				
第32回	まとめ	第3期と全体のまとめ, 授業アンケート				
評価方法と基準	(1) 取り組み姿勢(50%), (2) レポート提出状況(20%), (3) レポートの内容(実験の目的や意義に見合った内容や考察になっているか)(20%), (4) 創造的能力(考察の多角性や独自性, アイディアの具現化や提案力など)(10%)					
教科書等	工学基礎Ⅱ実験書, 実験実習安全必携, 実習服, 安全に実験ができる身なり, 実験ノート(各自で用意)					
備考	第17回目の授業は、補講日を使用する 1.試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2.授業参観される教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。					

1年	科目	工学基礎Ⅰ	講義	通年	担当	押川達夫、遠山和之、 勝山智男
全学科共通		Fundamentals of EngineeringⅠ	必修	1履修単位		OSHIKAWA T, TOHYAMA K, KATSUYAMA T
授業の概要						
1年次に学習する共通実験と並行して学習する。工学を目指す初学年者にとって、最も基本的で重要な工学の基礎を学習する。これは2年生以降の高学年でも、また専門性が異なっても共通する重要事項の学習内容である。						
本校学習・教育目標 (本科のみ)	○	目標	説明			
		1	技術者の社会的役割と責任を自覚する態度			
		2	自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力			
		3	工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力			
		4	豊かな国際感覚とコミュニケーション能力			
		5	実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢			
プログラム学習・教育目標 (プログラム対象科目のみ)						
実践指針(専攻科のみ)						
授業目標						
工学に共通の基礎知識を身につける。						
授業計画						
第1回		なぜ工学を学ぶのか	沼津高専のアドミッションポリシーと教育目標、工学を学ぶ心得、技術者倫理			押川・遠山・勝山
第2回	第Ⅰ期	事故防止のための安全教育1	薬品の安全な取り扱い方①			押川
第3回		事故防止のための安全教育2	薬品の安全な取り扱い方②			押川
第4回		事故防止のための安全教育3	薬品の安全な取り扱い方③			押川
第5回		電圧電流測定技術1	テスターの基本的使用方法			遠山
第6回		電圧電流測定技術2	電圧計と電流計の原理と基本的使用方法①			遠山
第7回		電圧電流測定技術3	電圧計と電流計の原理と基本的使用方法②			遠山
第8回		沼津高専の勉強				勝山
第9回		報告書の書き方1	実験ノートのとりかたとノートの重要性			勝山
第10回		報告書の書き方2	グラフと図の書き方			勝山
第11回	第Ⅱ期	事故防止のための安全教育4	火気の安全な使用と作業服の重要性①			押川
第12回		事故防止のための安全教育5	火気の安全な使用と作業服の重要性②			押川
第13回		事故防止のための安全教育6	火気の安全な使用について③、地震対策			押川
		前期末試験	範囲は第Ⅰ期の内容			
第14回		試験返却と解説	(視聴覚教室)			押川・遠山・勝山
第15回	第Ⅱ期	単位と工業規格1	SI単位と組立単位			遠山
第16回		単位と工業規格2	JIS規格について			遠山
第17回		事故防止のための安全教育7	電気器具の安全な使用について			遠山
第18回		誤差と有効数字1	測定値と誤差			勝山
第19回		誤差と有効数字2	測定器の読み取りと有効数字			勝山
第20回		誤差と有効数字3	間接測定量の有効数字			勝山
第21回	第Ⅲ期	事故対応について1	事故時の報告・連絡・相談			押川
第22回		事故対応について2	応急処置			押川
第23回		知的財産について				押川
第24回		後期中間試験	範囲は第Ⅱ期の内容			
第25回		試験返却と解説	(視聴覚教室)			押川・遠山・勝山
第26回	第Ⅲ期	電卓の使用法1	基本的な使い方			遠山
第27回		電卓の使用法2	三角関数			遠山
第28回		電卓の使用法3	指数関数・対数関数			遠山
第29回		地球環境問題1	工学技術の発展と環境問題			勝山
第30回		地球環境問題2	ごみの分別・排水処理と持続可能性			勝山
第31回		地球環境問題3	環境倫理と生物多様性			勝山
		学年末試験	範囲は第Ⅲ期の内容			
第32回		試験返却と解説	(視聴覚教室)			押川・遠山・勝山
評価方法と基準	3度の定期試験(前期末、後期中間、学年末)の平均点で評価する。満点の60%で合格とする。ただし、レポート等により、十分に学習内容を理解したことが確認できた場合は最低点で合格させることがある。					
教科書等	沼津高専「工学基礎実験指導書」・関数電卓(指定のもの)					
備考	1.試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2.授業参観される教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。 3.第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期のそれぞれの範囲内で各講師が3回連続で講義する。					